

25年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 9月20日～ 10月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		25/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	40.0	60.0	20.0
	ヒノキ	33.3	66.7	66.7
	カラマツ	△ 20.0	△ 20.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	50.0
消費動向	スギ	60.0	40.0	20.0
	ヒノキ	66.7	33.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 40.0	△ 20.0	0.0
	ヒノキ	△ 100.0	△ 66.7	△ 66.7
	カラマツ	△ 40.0	△ 20.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	50.0

国産材原木入荷は、スギ、ヒノキともにプラス基調で推移、カラマツは10、11月のマイナスが12月はプラスに、トドマツは10、11月の横ばいが12月にはプラスに。
消費は、スギは大きなプラスからプラス幅が縮小に、ヒノキは大きなプラスから12月は横ばいに、カラマツ、トドマツは横ばいで推移。
在庫は、スギは10、11月のマイナスが12月には横ばいに、ヒノキは大きなマイナス基調で推移、カラマツは10、11月のマイナスから12月はプラスに、トドマツは10、11月の横ばいから12月はプラスに。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/10月	11月	12月
スギ	20.0	0.0	0.0
ヒノキ	100.0	66.7	33.3
カラマツ	20.0	20.0	20.0
米マツ	0.0	33.3	33.3
北洋カラマツ	25.0	25.0	0.0
その他	-	-	-

原木価格は、スギは10月のプラスが11、12月は横ばいに、ヒノキ、カラマツはプラス基調で推移、ヒノキは12月にはプラス幅を縮小、米マツは10月の横ばいから11、12月はプラスに、北洋カラマツは10、11月のプラスが12月は横ばいに。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・カラマツの動き活発で丸太調達に苦戦。ヒノキ需要に対応して丸太消費増加。在庫は8、9月の入荷調整とカラマツ入荷減により全体的に減少。入荷はスギは在庫調整終わり消費分の丸太の入荷予定、ヒノキは9月入荷が予定の半分で今月は増量を要請しているが反応悪し。消費はフル生産でスギ、ヒノキの消費はMAX、スギは10月から今の在庫量をキープしたい、ヒノキは在庫減り10月の予定量入らないと非常に少ない。入荷、消費とも生産に合わせて行っており在庫も適正水準。・天候に左右されカラマツの入荷遅れ。・若干出材ダウン、これからはシステム販売材が出てくる。年末に向け需要旺盛フル生産へ。

(原木価格)・スギ、ヒノキ及びカラマツとも上昇。スギは市場価格高騰しているが合板用原木は安定しているため価格は横ばい、ヒノキは市場価格高騰し原木少なく値上げ、米マツは産地生産、在庫安定してきた、価格横ばい、カラマツは伐採の端境期で生産少なく買いに行くとき高い。北洋カラマツ不安定。・安定供給・安定価格が前提だが木材利用増で値上の雰囲気か。

25年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		25/10月	11月	12月
生産動向	構造用(9mm)	20.0	20.0	0.0
	// (12mm)	0.0	0.0	0.0
	// (15mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	// (24mm)	33.3	33.3	33.3
	// (28mm)	33.3	33.3	33.3
出荷動向	構造用(9mm)	20.0	20.0	20.0
	// (12mm)	16.7	16.7	16.7
	// (15mm)	16.7	0.0	0.0
	// (24mm)	33.3	33.3	16.7
	// (28mm)	50.0	33.3	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 25.0
	// (12mm)	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	// (15mm)	△ 40.0	△ 33.3	△ 16.7
	// (24mm)	△ 50.0	△ 33.3	△ 33.3
	// (28mm)	△ 50.0	△ 33.3	△ 33.3

生産動向は、9mmは10、11月のプラスを経て12月は横ばいに、12mmは横ばいで推移、15mmは10月のマイナスから11、12月は横ばいに、24mm、28mmはプラス基調で推移。
出荷は、15mmの10月のプラスを経て11、12月はマイナスを除いて、それ以外はプラス基調で推移。
在庫は、全てマイナス基調で推移。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/10月	11月	12月
構造用(9mm)	0.0	20.0	0.0
// (12mm)	16.7	33.3	16.7
// (15mm)	16.7	33.3	0.0
// (24mm)	33.3	50.0	33.3
// (28mm)	33.3	50.0	33.3

価格は、9mmを除き、総じて強含みないし強保合で、一部品目が特定月で保合。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

・通常生産を維持、厚物（ネダノン）が増加傾向。出荷はヒノキ合板が増加しており今後も期待、厚物（ネダノン）サネ加工品が増加傾向。在庫は全般的に少なく出荷遅れ気味。生産は在庫少なく各厚みでのバランスをとった生産、生産量での出荷、在庫少なく増える状況ない。生産は9-15mmは横ばい24-28mmは増加、出荷は24-28mmはプレカット工場中心、トラック取りにくく生産分の出荷がやっと、在庫は横ばい。・在庫無く納期に追われた生産、生産量イコール出荷量、在庫無い状態暫く続く。・ほとんどのアイテム生産増、特に長尺関係在庫薄。プレカット、ハウスメーカー等直需と共に木建ルートも動き出す。

(合板価格)

・原木、接着剤の値上げ分を確保したい。期待している。原材料・送料のコストアップが要因で上昇。先月と同じ。・物不足続いているが、価格は落ち着いてきている。・在庫少なく、即納きかない状態。・じっくり、ゆっくりマーケット見ながら価格設定、電気、接着剤、運賃等外部要因により値上げ必要。